

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・この秋冬のトレンドで、60年代のベーシックなトラッドな部分が上がってきており、万人に受けるのではないかと思われる。また、コートの動きが出てくると、今よりも単価が上昇し、商品の動きも良くなると思われる。
		家電量販店（店員）	・DVDレコーダ、サイクロン掃除機、ノンフロン冷蔵庫、ターンテーブルなし電子レンジといった商品などが買い替え需要のけん引役となっているので期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・国内旅行は比較的堅調であり、海外旅行も底から脱すると思われる。
		旅行代理店（従業員）	・札幌市内での大型大会の開催や、SARSによる国内旅行へのシフトから、定山溪・登別・洞爺湖のいずれも好調な宿泊数と聞いており、その波及効果を期待する。
		通信会社（企画担当）	・新商品が3か月後くらいに出そうであり、販売量の増加が大いに期待できる。
		観光名所（職員）	・来客数が増えているが、こうした状況はもう少し続くのではないかと思われる。
	変わらない	商店街（代表者）	・まだまだ景気の回復の兆しが見えてきていない。農作物の不作、それに伴う景気の低下など、冷夏の影響が心配される。
		商店街（代表者）	・今年も色々な全国大会やビジネス会議があると思われるので、今後も変わらない。
		スーパー（店長）	・小売業の低迷に加えて、今年の冷夏に伴う稲作状況が最悪という話を総合すると、この先も明るい兆しはないと思われ、今後も変わらない。
		衣料品専門店（店員）	・夏場よりも単価が上がったが、一人当たりの買上金額もそれほど差がなく、高い物であれば一点のみで、安い物であればまとめて買うという状況は相変わらずであり、今後も今と同じ状況で変わらないものと思われる。
		家電量販店（経営者）	・この地域特有の問題だが、炭坑が閉山した後の後遺症が相当出ているようで非常に厳しい状況がずっと継続している。この先も改善されそうにない。
		家電量販店（地区統括部）	・来客数、単価は回復基調にあるが、消費者のマインドはまだ冷えている。秋は新商品の発売ラッシュに期待しているが、季節商品の動きが鍵となる。
		乗用車販売店（役員）	・車両台替も長引く傾向にあり、車検台数の在庫も減少傾向にあり、今後も状況は変わらない。
		住関連専門店（経営者）	・回復する要素が全く見当たりません。年末にかけて若干良くなると思われるが、商店街の空き店舗も目立っている。
		スナック（経営者）	・10月、11月になると総選挙が始まり、選挙が始まると非常に暇な状態になるような感じがする。
		観光型ホテル（経営者）	・9月、10月の宿泊予約状況が昨年とほとんど変わっていないため、今のところの見通しとしては今後も変わらないと思っている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・単価はある程度下げ止まっているが、宿泊客の予約が直前になって決まるなど売上の予測がつきにくくなっている。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況が昨年とさほど変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・国内旅行については前年並みで推移しているが、海外旅行の動きが今後の鍵を握る。各社のチャーター計画は、まだ表に出ていないが、1月以降実施が出てくるのが予想される。また、ハワイの定期便の運休の影響が出てきそうである。
美容室（経営者）	・売上、客単価とも、あまり変動がないので当分は大きな変化がないように感じる。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・冷夏の影響はこれから現れる。日照不足により、農作物への影響は避けられず、収穫期の秋に消費が鈍化する。	
	百貨店（売場主任）	・来客数の動きは少しずつ上がってきているが、商品単価が下がっている傾向が非常に強く、高額品の動きが鈍くなる。	
	スーパー（企画担当）	・冷夏、日照不足の影響で米の作況指数の大幅な低下、果実の糖度不足等が顕在化してきており、消費環境は好転の兆しが見えない。また、社会保険料の負担増による給与所得の目減りが消費減退の一因になる。	
	コンビニ（エリア担当）	・競争相手では、夏場の売上がほとんどとれていないため、今後、競争が激化すると思われる。	

		衣料品専門店（店長）	・近いうちに選挙があるのではないかとと思われるが、これまでも選挙のある年は商売が悪かったので、今後はやや悪くなるのではないかとと思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・前年に比べても来客数が少なく、そのため商談も少ない。
		高級レストラン（スタッフ）	・2、3か月先の予約状況が非常に悪い。
		一般レストラン（スタッフ）	・競合店の出店が決まり、厳しくなることが予想される。
		一般レストラン（スタッフ）	・勝ち組と負け組の差がはつきりしてきて、外食控えも行われるのではないかとと思われる。
		観光型ホテル（経営者）	・冷夏の影響がじわじわ効いてきており、道外客は海外というより沖縄を指向し、地元客は農業生産者も年配者も、旅行に二の足を踏んでいる。お盆休み、夏休み効果も、景気後退基調のなかでは、あまり期待できないということを再認識させられた。
		タクシー運転手	・どの業種ということなく売上の減少が続いている。この秋は天候不順で農産物が不作ということもあり、この影響で農業従事者などの購買力が落ちるため、その影響が2、3か月後に出てくるのではないかとと思われる。
	悪くなる	スーパー（店長）	・全体の傾向は前月と大きくは変化ないが、来客数の減少が今月に入り顕著となる。食品部門ではやや回復しているが、買上点数の減少のため、売上の増加へと繋がらず、低調に推移していくことが予測される。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数が減少し、商品一個当たりの単価も低下しつつあることに加えて、今年の冷夏の影響が出てくる。
		コンビニ（エリア担当）	・管内は農業に依存している部分が多く、農作物については生育も遅れており、秋以降の収入面に非常に影響があると思われる。
		コンビニ（エリア担当）	・冷夏による農作物の収量の減少が、今後の景気に大きく影響してくるようになると思われる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・必要な品を上手に納得して買う、賢い節約方法が客にできてしまった。集客をディスカウントに頼るという手法は、もう終わっているのかもしれないと思われ、これまでの大量販売に頼るという感覚を変えて行かなくてはいけないような気がしている。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（営業担当）	・悪材料は出つくした状態であり、飼料原料や紙パルプの増量が期待できる。
		通信業（営業担当）	・取引先の動向として、異業種への参入や新規マーケットの開拓など、ここしばらく聞こえなかった積極的な動きが見られるようになってきた。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・株価は回復したが、本質的な景気回復に乏しく、冷夏の影響もあり、いまだ消費者マインドは盛り上がり欠けている。総選挙があると外食を中心に食品の消費は落ち込むので、その点も不確定要素である。
		輸送業（支店長）	・新規案件が出てきたといっても、まだ件数も少なく大きな動きにはならないため、停滞感はしばらくの間続くものと思われる。
		金融業（企画担当）	・農作物の収穫量が確定する時期となり、農村地域で消費マインドの冷え込みが懸念される。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・稲作、畑作ともに作柄が心配される。特に小麦、馬鈴薯、ビート、玉葱といった大規模栽培作物は地域に与える影響が大きく、組立作業が最盛期の秋作業農機具メーカーでは大いに心配している。
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・公共工事については受注が一段落し、完成物件も出るなど、稼働量としては現状維持程度と思われる。民間工事についても相変わらず物件、価格とも厳しく収益は期待できない。
	悪くなる	司法書士	・住宅金融公庫の金利の引上げが報じられており、今後、不動産取引は更に落ち込むと思われる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・介護・病院介護系の求人や大卒心理系の求人を中心に、これから今までよりも伸びていくように思われる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・料金の引き下げや低減は続いているものの、求人数は少しずつではあるが増加している。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数は増加しているが、本州の製造業の影響などが主な原因であり、他の業種では顕著な増加は見られない。

	職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が0.3倍台と低水準で推移しており、当分この状態が続くと思われる。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・8月10日に大型百貨店が閉鎖し、大量の離職者が発生しているほか、基幹産業である水産加工業の求人が原料不足により減少している。
悪くなる	-	-